

令和8年8月5日総合計画審議会専門部会A-3

参加者： 阿部委員、江口委員、嶋野委員、平谷委員、中村委員

欠席者：なし

ファシリ：坂田さん 板書：河井

①公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展

○質問

委員

3施策の達成状況②が「目標達成が難しい」となっている。その根拠を読むと、経営収支のことの記載しかなく、成果指標の患者数や、病床稼働率の目標が達成できない根拠になっていない。

中田事務長

確かに根拠にはなっていない。

病床稼働率はコロナを機に減少。それにともない、病床数を減少させ率は回復した。

外来の患者数が達成できないことから目標達成は難しいとした。

一色補佐

目標値について、外来が75,000人いれば収支改善できるので設定したもの。そういった経緯から金額について根拠を作成した。人口減や、コロナ後外来者数は戻っていない状況。

委員

理由が目標の達成理由になっていないので、今後確認修正を行ってほしい。

○評価の妥当性

委員 B

経営状況が全国的にも危機的状況。

そんな中赤字ではあるものの、赤字の額を維持減少させたと考えた。

各種取組の成果も上がっていることから判断。

委員 C

医療収益が伸長していることから。

委員 C

成果指標が計画策定時よりも伸びている点を評価。

病床稼働率上がっている。

委員 C

成果指標が計画策定時よりも伸びている点を評価。

委員 C

成果指標が計画策定時よりも伸びている点を評価。

○今後の取り組みに対する意見

委員

重要な救急指定病院や、今後重要になっていく訪問診療等が経営を圧迫していると感じるが、そういった部分がどれだけ費用がかかるか町民に周知することで、住民協力を得られるのではないかと。

杉本補佐

救急指定に対して費用がかかるのは確かだが、その部分や診療科ごとで費用がどれだけかかっているかは不明。ご意見は頂戴する。

委員

大学病院でさえ経営難で機材も更新できないところもあると聞いた。機材を入れることは、医療の向上に資すると思うので、そういったことも考えて導入検討してはどうか。

杉本補佐

現状も医療の向上に資するかを検討して行っている。

委員

心不全の死亡者数が増えている。
対策が必要ではないか。

全部摘要に取り組んでいただきたい。

杉本補佐

循環器専門の医師を呼んで対応している。

一色補佐

全部摘要については人事、給与部分が負担となる。

こういった課題を解決しなければならない。

②学校教育の充実

○質問

委員

成果指標の全国学力学習調査対象者は。
また、計算方法は。

林係長

回答した数÷受験した数
対象は小学6年生、中学3年生である。

委員

小学6年生で答えた子供が、中学1年生でどうなったかが見えないと感じる。
回答する学年により大きく変わるため推移をみるとときには、慎重に扱わなければと感じる。
毎年調査するような項目も検討してほしい。

委員

令和7年からメタバースに参加とあるが、どういったものか。
また、メリットは。

林係長

不登校児のために仮想空間で学習、交流ができるよう、また居場所づくりのためにしているもの。
大勢のところに行かなくて済むことや、文字でやり取りできる点がメリットである。

○評価の妥当性

委員 C

成果指標①②の伸び。
担当課評価や総括から判断。

委員 C

成果指標①②の伸びから判断。

委員 C

成果指標から判断。

委員 C

成果指標から判断。

成果指標③は朝食を「摂らない」のか「摂れない」のかが重要だと感じる。

委員 C

成果指標から判断。

○今後の取り組みに対する意見

委員

小学6年生と中学3年生に取っている調査のため年度に偏りがあるものと考えている。

全指標がこれを基にしてしまうと偏りが出るため、次期計画は違うものを採用してはどうか。

佐々木課長

次期計画は変更を計画している。

ただ、経年で見ていく数字を集計していないので難しい。

委員

成果指標について、全国学力学習状況調査の項目にはないが、「学校生活が充実している生徒の割合」や、「困ったときに相談できる大人がいる生徒の割合」が良いのではないかな。

佐々木課長

成果指標③を外し、全体的に見直す予定である。

委員

不登校の児童生徒への取り組みをお願いしたい。

不登校への対応が、教員等によってバラツキがあると感じる。

統一をお願いしたい。

佐々木課長

不登校の児童生徒への取り組みは、劇的に改善するものはないと感じている。

気づいたところからなど1つずつ、改善していきたい。

③地域で支え合う福祉社会の実現

○質問

委員

事前質問の支援員が思ったより少ないと感じる。

委員

支援員自体は19人いるが、日常生活自立支援事業を使っているのが2名という状況。
その使用者の支援員が2名なので、実働者が2名という意味で記載されたものである。

○評価の妥当性

委員 D

策定時の基準値と比較して顕著な増加が見えない。

委員 D

成果指標から判断。

委員 C

マネジメントシート全体を見て判断した。

担当課評価の「意識の醸成や支援体制整備を実施し、取り組みは前進したと考える」の記載を特に評価した。

委員 C

成果指標は前進に見えないが、貢献した事務事業を見て判断。

委員 C

基準値から見たら前進していることから。

ボランティアに対する割合が意外と高いと感じた。

○今後の取り組みに対する意見

委員

ボランティアに対する意識高い。それを活かした方策を考えては。

特に女性の高齢化が進むと考える。女性の活躍を検討してはどうか。

森課長

高齢女性に特化したものは検討していなかった。今後の検討材料とする。

委員

ライフスタイルが多様化している。その中で、今後支え合いは難しいと考える。
具体的なメリットを示して協力を図ってはどうか

高齢者が高齢者を見守る体制もいいのではないか。

高齢者のデジタル活用を今から取り組みを進めた方が良いのではないか。

杉山補佐

支え合う体制、仕組みづくりも大切とは考えるが、お互いに日々の声の掛け合いに力を入れている。

森課長

ウォーキングアプリについて75歳以上の人意外と使っていると感じた。
デジタルの取り組みは検討して行く必要があると感じる。

委員

緊急時の支援は民生委員が今以上に活躍しなければならないと感じる。
役場自体が民生委員をもっと使ってほしい。